

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	工業簿記2 (Industrial Bookkeeping 2) 392107-14600					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
1年次配当の簿記入門では商品売買業における基本的な簿記を学んだ。工業簿記1・2では製造業における簿記を学ぶ。工業簿記2では日商簿記検定2級における工業簿記の範囲の中でも応用的な総合原価計算、本社工場会計、標準原価計算、直接原価計算およびCVP分析について学ぶ。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記2級対応科目である。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
スライド資料、レジュメ等はGoogle Classroomを通じて配布する。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「工業簿記1」の履修を必要とする。 「商業簿記1」「商業簿記2」と共に履修することを強く推奨する。									
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
(i) 本社工場会計の仕訳について、検定試験レベルの問題を解くことができる (ii) 応用的総合原価計算について理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる (iii) 標準原価計算における差異分析、直接原価計算(CVP分析)について理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる									
⑥ テキスト(教科書)									
滝澤ななみ(2022)『簿記の教科書 日商2級 工業簿記(第7版)』TAC出版 滝澤ななみ(2019)『簿記の問題集 日商2級 工業簿記(第10版)』TAC出版 (2022/1/20現在では「出版予定」である)									
⑦ 参考図書・指定図書									
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 本社工場に関する仕訳	難易度の高い検定試験レベルの仕訳問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの仕訳問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(ii) 応用的総合原価計算	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(iii) 標準原価計算、直接原価計算 (CVP 分析)	難易度の高い検定試験レベルに解答できる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの問題について教科書を見ながらでも正答できない。

⑨ 学習の到達目標 (評価項目) とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標 (評価項目)	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 本社工場に関する仕訳	10%	5%						15%
(ii) 応用的総合原価計算	35%	10%						45%
(iii) 標準原価計算、直接原価計算 (CVP 分析)	35%	5%						40%
フィードバックの方法	小テストは採点して返却・解説する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
多くの問題に触れることで本質的な理解を進め、検定試験レベルの問題が簡単に解けるようにしていきたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス、工程別総合原価計算	教科書の予習と基本問題演習、前期の単純総合原価計算を復習しておくこと。（授業には電卓持参）	90分
2	組別総合原価計算	教科書の予習と基本問題演習、組間接費の配賦について理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
3	等級別総合原価計算	教科書の予習と基本問題演習、等価係数、積数について理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
4	財務諸表・本社工場会計	教科書の予習と基本問題演習、特に原価差異の表示について製造原価報告書と損益計算書における違いを理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
5	標準原価計算とは	教科書の予習と基本問題演習、標準原価計算の全体像を理解する。パースナル・プランとシングル・プランの違いについて理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
6	標準原価計算（差異分析）	教科書の予習と基本問題演習、原価差異の分析に用いる図を書けるように練習しておく。（授業には電卓持参）	90分
7	直接原価計算	教科書の予習と基本問題演習、特に固定費調整について暗記ではなく本質が理解できるようにしておくことと良い。（授業には電卓持参）	90分
8	直接原価計算（CVP分析）	教科書の予習と基本問題演習、授業で説明するCVP図表を書けるようにしておく（授業には電卓持参）	90分
9	問題演習（費目別計算、個別原価計算）	費目別計算は後期の範囲の前提となるため、よく復習しておくこと。（授業には電卓持参）	90分
10	問題演習（単純総合原価計算）	問題集の問題演習、単純総合原価計算の理解は後期範囲の応用的な総合原価計算の礎となる（授業には電卓持参）	90分
11	問題演習（工程別総合原価計算）	問題集の問題演習、仕損・減損や原価配分（先入先出法、平均法）との組合せ、複数の原料を使う場合などの問題に対応できるように基礎から復習しておくこと（授業には電卓持参）	90分
12	問題演習（組別総合原価計算）	問題集の問題演習、組間接費の配賦方法を中心に復習しておくこと（授業には電卓持参）	90分

13	問題演習（等級別総合原価計算）	問題集の問題演習、完成品原価を積数の比によって按分する方法を復習しておくこと（授業には電卓持参）	90分
14	問題演習（直接原価計算・CVP分析）	問題集の問題演習、CVPの関係を本質から理解し、どんな問われ方でも解けるように復習しておくこと。（授業には電卓持参）	90分
15	まとめ		90分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型ALを採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性